

令和4年度第3回八戸市環境審議会

令和4年12月23日（金）14時00分～

八戸市東部終末処理場3階会議室

市長から諮問

第3次八戸市環境基本計画及び第2次八戸市地球温暖化対策実行計画区域施策編の策定について

市長挨拶

【会長】

それでは、これから第3回環境審議会の審議を始めます。

先程、二つの案件について諮問を受けましたが、まず「案件1 第3次八戸市環境基本計画の策定について」、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 案件1 資料1-1から1-4に基づき説明

【会長】

ご説明ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありましたが、今回の基本計画の素案について、この場で皆様からご意見等あれば、お話しいただければと思います。どなたかいらっしゃいませんか。

【委員】 よろしいですか。

【会長】 どうぞお願いいたします。

【委員】

今説明いただいた中で、資料1の2の中に市の施策方針と市民の行動指針、事業者の行動指針とありますが、この中で一番気になるのは、市民の行動指針です。これは市民に、ある程度何らかの制約等を課す行動を起こしていただきたいということになると思いますが、市民の方の価値観がいろいろある中でどのように調整していくのか。なかなか難しいと思いますが、価値観の衝突がないように、市民の意見を聞いていただきながらまとめるのが大事かと思います。

もう一つは、市民の行動指針を資料の1の3、効果の指標を元に評価していくのだと思いますが、市民の方が各項目の中でどれが特に重要で、これをどうすれば効果指標に具体的に貢献できるのか。正論ばかりを並べるのではなく、特に八戸市としてアピールしたいものを出していただいたほうが、市民の方が理解しやすくなる、市としての考え方がより分かりやすくなるのではないかと思います。また、紹介していただいた市民の行動指針のどの辺が特に注視したい方針なのかが分かると、今後、委員の方がコメント出しやすいのかなと思います。

一つは、市民の行動指針について価値観の衝突には留意していただきたい。一つは、効果

指標について、どこをどうすれば効果に結びつきやすいのかを示していただくこと。また、八戸市としてどこに注目してやっていきたいか。この3点をまず分かりやすく説明していただけると、コメントしやすいかなと思いました。

【会長】

ありがとうございます。では事務局から回答をお願いいたします。

【事務局】

行動指針が多岐に渡っておりますので、市民の方の価値観の違いというのは当然あるのかと思います。まず、市民の皆さまには自分でできることをやっていただければと思っています。この項目の中でどれを重点的にというのは申し上げにくいのですが、効果指標の結びつきについては、行動指針に直結しているものもあれば、結びついていないものもあると思います。市でとらえられる数値として上げているものもございますので、逆にこういった指標もあるのではというご提案をいただければありがたいと考えています。

【委員】

ありがとうございます。色々な項目がありますが、その中で、いわゆる努力目標的な部分と、実際に市として注目したい目標と、二つに分けて説明すると市民の方もより理解しやすいのかなと思いました。

【会長】

貴重な意見ありがとうございます。委員がおっしゃったように、八戸市ならではの、八戸市の特徴をつかんだ取り組みがあるといいと思います。我々も色々考えて、アイデア出しをしていければと思います。

その他に皆さんから、何かご意見ありますか。今日は自由にディスカッションできればと思います。

【委員】 はい。

【会長】 どうぞお願いします。

【委員】

一つ提案ですが、バス利用回数については変わらないような気がします。市の二酸化炭素を減らす観点からすると、バスの運行や廃棄物の回収・運搬により排出されるCO₂は推計できるので、バスを小型化するとかEVにするとか考える。利用回数を指標とするのではなく、CO₂削減のほうがわかりやすいし、運行回数を増やしてお年寄りや子ども達が利用できやすくするとか、停留所に屋根をかけてあげるとか、そういう工夫のほうが必要だと思えます。

それと矛盾しているのが、家庭系廃棄物、最終処分量、ごみの量です。廃棄物部門のCO₂が14%削減になっていますが、このままの廃棄物排出量でいくと削減できないなと思います。だからゴミはもっと減らさないといけないと思うのですが、いかがでしょうか。ここは指標をもっと積極的に。廃棄物排出量が、市民が一番関与出来る問題ではないかと思えます。

今、プラスチックごみの回収モデル事業をやりだしているのですから、ここまで下げないと

駄目なんだよと、市民にアピールする。CO2削減量と整合性があるような関係に持つていくことで、消費者側が求めるような包装になる。積極的にスーパーに働きかけ、野菜のパッケージをやめるとか、地産地消のコーナーを増やすこと等で、過剰包装が無くなるのではないかと思います。

人の行動を変えるということはとても大切なことだと思うので、指標について市から積極的に言ってあげないといけないと思いました。

【会長】

はい、ありがとうございました。では、事務局から何かありますか。

【事務局】

削減目標については、どんな指標がいいか悩むところですので、貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。

【会長】

他に何かご意見ご質問等ありましたら、お願いいたします。

【委員】

低炭素社会から脱炭素社会づくりという基本目標になったのは非常に良いことだなと思ったのですが、それに合わせた資料1の2の5ページ市民の行動指針が、具体的ではないと感じました。脱炭素社会に向けた行動指針を、今すぐどれをどうしたら良いか浮かばないのですが、お二人の委員からのお話もそうですし、より理解しやすい具体的な目標が必要なのではないかなと感じました。

【会長】

貴重な意見ありがとうございます。他に皆様から何かございませんか。どうぞお願いします。

【委員】

江陽と小中野で行ったプラスチックごみ回収のモデル事業で、どれだけの効果があったかを知りたいです。その地区の方の意見を聞いたのですが、ごみが半分に減ったとおっしゃっていました。そうすると、他のところでそれをやるだけで、ごみの量が減るのではないかと思います。

簡単なことかどうかかわからないですが、市民が1番やりやすいはごみだと思うので、そこから進めた方がいいと思います。ごみの分別等を市でやっていますよね。それをもっと町内等に向けて呼びかける。こうすればこれだけ減るのだということをグラフでも表でもいいから示してほしい。こうやりました、このくらい減りました、だからもう少しここを工夫してください等と市から呼びかけていただくと、一人ひとりが実感して、私たち市民としては行動に移しやすいと思います。

【会長】 事務局のから何かありますか。

【事務局】

モデル事業の件について、10月に始めて11月に1回集めました。小中野・江陽地区以外

から持ち込まれたものもかなりありましたが、1回目は600数十kgでした。また、2回目を年明けから集めますが、やはり1回目と同じぐらい600kgから700kgが集まると予想しています。成分等については分析している最中なので、まだ結果は出ていません。

家庭から出るごみが半分近くになっているという話をされる方もいました。こちらで思っていた以上に、市民の関心が高かったという実感があります。

一方で、思った以上に集まったこともあって、これをどう集めるかということが大きな課題になってきていますので、さらに検討していきたいと思っています。モデル事業の結果が出ましたら、市民の皆さんにもお示ししたいと思っています。

【会長】

プラスチックごみの回収の件は、第一歩という形で市民の皆さんにお知らせしたらどうですか。どのような効果があったのか、伝え方が大切だと思います。

その他に何かございましたら。

【委員】 はい。

【会長】 はい、お願いいたします。

【委員】

このような指針や行動、環境項目が出ているのですが、私は連合町内会を15年やっておりますが、連合の集まりでは一回も環境について語ったことがない。果たして、各町内会にどの程度浸透しているのか。

全市的にこういう情報が来ているのかどうか分からない。一番分からないのが、どの程度達成しているから、第二次計画から第三次計画に行くのか。何の機会に、広報されているかわかりません。

例えば、先程聞いて分からなかったのが、この資料1の2の森林の件。資料2ページのひし形の黒印のところで、不習岳の森林環境教育活動や森林リクリエーションの推進。不習岳をこれくらい利用してくださいというのは、私共に情報が来ているのでしょうか。

効果指標というものを使っていますが、どの程度の行動をどれくらいやるとこの達成率になるのか。自分は行政にいたことがあり、諮問する前には目標の達成率が何%だから、この取組をもう少し強化しましょう等と話し合った経験がありますが、第二次計画から第三次計画への数字が全然見えない。計画について、私ども素人からすると、すごく良いことを書いてあることは読めば理解できます。けれども、実際にこれはどうなのかということになるとわからない。私が質問できるとすれば、この森林センター、不習岳に関してどのような施策を出して、どれくらいの方が利用しているんですかということ程度です。これが連合町内会の実態です。

【会長】

貴重なご意見ありがとうございます。市民に環境基本計画という取り組みが伝わっていないということを重く受け止めないといけないし、言葉だけではなくてどうすればいいのか、委員の皆さんと職員の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。本当に貴重なご意見です。

ありがとうございます。

では今の質問に対して、事務局からいかがでしょうか。

【事務局】

この計画に限らないのかもしれませんが、計画をつくって周知はしてるのですが、わかりにくいため伝わっていないのが実態だろうと思います。周知については引き続き努力していかなければいけないと思います。

【会長】

今までと同じことをやっていけば伝わらない。だから、今までと違ったことをこれから取り組んでいかなければいけないと思います。具体的にどういう方法でやるか、この審議会で意見交換しましょう。その他、何かございましたらお願いいたします。どうぞお願いいたします。

【委員】

委員お話のとおり、町内会レベルで全く話がないというのは本当にそうだと思います。環境に関することも、一番身近な組織である町内会に伝える仕組み作りをすることで、市民の関心が違ってくるのかなと思います。

今回と違う話で申し訳ありませんが、指針の1の(3)「森林・農地の保全」に、土壌分析のお話があります。農水省の「みどりの食料システム戦略」のCO₂ゼロエミッションの実現という中に、低リスク農業への転換等により化学農薬の使用量を50%削減するするという目標がありますが、今回の八戸市の目標に踏み込むべきことなのかがわかりません。農地の問題、化学肥料の問題等を、もっと目標の中に入れられるのかどうか気になりました。その辺はいかがですか。

【会長】事務局からどうぞ。

【事務局】

国全体としての数字はとらえているかもしれないですが、都道府県や市町村のレベルで、とらえられるかどうかは、確認しないとわかりません。

【会長】

今まで、市のレベルで農業政策にどの程度取り組んでいるのかよくわかりませんが、環境関係の取組はあるのでしょうか。

県レベルではわかりますが、市町村でどこまで農林水産関係の取組をされているのが良くわかっていません。

【委員】

農林業については、県が積極的に動いている様子があります。林業に関わっている人はいっぱいいるので、林業にはこんな問題があるんだよとか、木材はこんなことに使われているんだよということを、子どもだけでなく大人にも話をしてもらおうと、環境問題として考えられる。里山で林業を育ててきた経緯があったが、今は荒廃しているところがある。里山は大切なんだと話をする活動をしたほうが良いと私は思っています。

農林水産業のことをこの計画に載せると、異質な気もしますが、いわゆる環境教育という面から取組を企画するのであれば、お手伝いができます。

【委員】

私は、関係行政機関職員ということで参加させていただいています。水産分野から参加させていただいているのですが、市でできるのことは何かという点については、非常に難しいと思っています。今、八戸市は鯖が非常に採れない。その辺は、市ではなくて国の施策と関連があります。市ができるのは、基本的には市場の整備等です。市場整備したけれども、採れなくて市が非難されていることは理解しています。

また、実際の産業としての施策の部分と、市民レベルでの広報や啓蒙の部分は切り離すのも大事かと思います。私は鮫地区に居住していますが、杉林等がどんどん無くなっています。ウッドショック絡みとか、木材価格の高騰といった産業的なものと、市民がどういうふうを考えているかは別の話です、産業としては、効率でやっている。生態系としては別の話で、それぞれ別の視点での啓蒙が大事だと思います。

八戸市としては、水産をメインに色々アピールしていくのも大事だと思います。海岸のごみ拾いの時に、種差のインフォメーションセンターで温暖化の話をさせていただきました。市民レベルで話をするのは非常に大事です。例えば、ベトナムではマングローブ、森林と海老養殖場保全を一緒になってやっている。この辺も、海や森があります。

また、産業としての農薬問題は、なかなか難しいものもありますが、市として啓蒙や市民活動的なものからアプローチするのも、一つありかなとは思っています。あとで質問票を提出しますが、前向きにこういった取組ができるのではないかとという内容で作成させていただきたいと思っています。何か参考になればと思います。

【会長】

ご指導よろしくお願いたします。委員に聞きたいのですが、陸上の農業だとエコファーマーというものがありますが、海ではエコフィッシャー等という考え方はありますか。環境に良い、持続可能な漁業の取組とか。

【委員】

環境に良いというか、基本的に採り過ぎて減ってしまっは困る。それが、まず一番大事なことです。

【会長】 資源管理のような。

【委員】

そうです。もう1つは、船は油を使いますので、省エネ対策。

船で魚がどこにいるのか探索することも油を使いますので、例えば人工衛星や海の情報を基に探索能力を削減する等の取り組みはされています。あとは、今、八戸は鯖を鮫子から持って来たりしているため、輸送費等がかかります。加工基地は八戸なので、作業的には難しくなりますが、少しでも環境負荷を減らす方法や取組はされています。

【会長】

お話していただいた中で、市で何かできることはあるのでしょうか。

【委員】

なかなか難しいですね。今はイカが取れない、鯖が取れない。八戸市も昔はイカが取れたイカの町で、鯖が取れたら鯖の町と、実はなんの町だという看板も変わっている。

八戸市として何を看板にするか、中長期的にどんどん変えていながら、今回で言うと2030年までにどの看板を掲げていくかが大事かと思います。水産業ばかりではなくて、八戸市民にこういう看板でやりませんかといったようなアピールができれば、皆さんものって

くれるのではないかと思います。八戸はイカの町、鯖の町で全国的に知られていますから、皆さんで考えて次の看板を出していただけると、市民の方も協力しやすいのかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。その他に気になった点でもかまいません。ご質問いただければと思います。どなたかいらっしゃいませんか。

それでは私からですが、資料1の4の基本計画を市民の皆さんが1回見て、協力しやすいものにするには、やはり見やすい計画を作るのが大事だと思います。

一つは、背景をまとめると1ページのように長くなるのかと思いますが、もう少し簡潔にポイントを抑えた文章にできないか。また、3ページの環境像です。これから2030年、さらに2050年カーボンニュートラルを見据えて、ここに書いてある環境像を読んでイメージができる内容かどうかというところですが、いかがでしょうか。

【委員】

6ページについて、どんなSDGsを取り上げるかだけを強調している。SDGsをやりますと目標設定をすれば、この表はいらないのではないのでしょうか。

【会長】

この6～7ページは、各取組がどのSDGsに関連するかという表になっていると思います。SDGsの考え方をこの基本計画に取り入れますということが最初に出てきていないので、そこをもう少しわかりやすくするということですね。

【委員】

また、計画期間を令和12年度までにしたのは、2030年度問題があるからですね。だから、今一番何を優先するかというと、やはり6ページ3番の脱炭素・循環型社会づくりです。これが一番。2030年度までに一番優先すべきことを最初にもっていかないと、少しぼやけてしまう。

一般的なマネジメントシステムでは、日常的管理は後ですね。一番最初に今年度の優先事項を出して、日常的にすることは後に持っていくのです。構成が前の計画を踏襲しているので、目標がぼやけてしまう。市として何をやるべきかを、最初にもっていかないといけないと思います。

【会長】

脱炭素を、この基本目標①に配置するということですね。

【委員】 よろしいですか。

【会長】 どうぞ。

【委員】

基本的な方針として、八戸は環境、社会、経済のバランスだと思います。私は八戸で生まれ育った訳ではないので、外から見ている八戸というのは、やはり環境と社会経済のバランスが取れる、地方として一番良い都市だと思います。

私は、方針はどういうふうアピールしていくかというところが一番重要だと思います。脱炭素社会を一番にもってくるとのことでしたが、それは国全体の目標なのでベースとして置いておく。八戸市としては、環境、社会、経済のバランス。八戸モデルとか、カッコいい言葉ができればいいなと思います。市民の人が協力したいと思うようなものを市としてあげて

いただきたい。種差海岸があるし、色々な食もある。ごみ問題等は確かに難しい問題かと思いますが、八戸としてグリーン社会の実現という方向はいいと思います。

【会長】

ありがとうございます、他に皆さんからありますでしょうか。

あとは資料1の4の4ページと5ページに基本目標があります。ここで基本目標①が「自然共生社会づくり」で、②が「快適環境社会づくり」、③に「脱炭素・循環型社会づくり」、あとその①から③を横断するような形で、「人づくり、仕組みづくり」という構成になっています。この構成については、皆様いかがでしょうか。

4つの柱で成り立っている形です。私の場合は、大枠から考えて、その後に個別の取組内容を考えていきます。こういう大枠の柱というか、取り組む大きな柱についてはいかがですか。脱炭素と循環型社会をくっつけていいものか。これから目指していく環境像。それに対して、こういう形で取り組んでいきますよという大枠。こういうところから考えていって、あとは個別にどういう取組をしていくか。すぐにはご意見いただけないと思いますが、先ほど事務局から説明があったように質問票がありますので、それぞれのお考えをまとめていただければと思います。

また、個別の政策、取組の内容について、皆さんからこういうこともできるんじゃないかとか、何かご意見とかありませんか。八戸に住んでいる者として、衣食住など一番身近なところから何か取り組める内容。あるいは、それぞれご専門の立場に関連すること等、市の取組としてできるのではないのかというものがございましたら、ご意見いただければと思います。

衣食住のうち、例えば着る物に関して言うと、比較的安価に買える店が流行っています。それで、若者たちは短期で衣服を買い替えます。そうすると資源を浪費することになるので、良い物を長く着るといふこと等を伝えていくということも大切だと思います。

食に関しては、やはり食品ロスを減らすこと。これは気付きなんだと思いますが、日常生活で冷蔵庫の中に食品をストックしてしまふことがあります。冷蔵庫まわりの整理整頓を週に1回くらいすることで、余分なものを買わない。そういう身近なことを市民に啓発することもできるのではないかと思います。

住まいのことですと、青森県は灯油の消費量が多いです。なぜ消費量が多いかと言えば、断熱性が悪くて寒い家に住んでいるからです。例えば、窓サッシを二重化するか、間に空気層を設けて断熱性を高くするか、家自体のリフォームの時に断熱してもらふ。そういう形で石油資源の消費量を少なくする。さらに、建て替える時には、いわゆるZEH、ゼロエネルギーハウスへの建て替えを推進する。そういうものも計画に入れていくといいかと思ひます。

今の時期は、やはり灯油を使ってしまう。お時間があるようであれば、ウォームシェアとかクールシェアという取組もあります。みんなで一箇所で温まって、各家の暖房消費量、灯油の消費量を抑える工夫。そういう取組もできるのではないのでしょうか。夏場は暑いからみんなで公民館に集まって涼しくしましょ、その時は市営バスを使ってくるかとか、色々な取組を重ねることによって、例えば中心街も少しは賑やかになるのではないかと。家庭での灯油の消費量も少なくなり、お互いに何か良いことがあるのではないかと。色々な取組を組み合わせることが、これから大切なのではないかと思っています。審議会でもそういうアイデア出しができたかと考えています。

【委員】

個人的なアイデアですが、私は石油ストーブがなければ、こたつだけで暮らしています。基本的に使わない窓に段ボール貼るとか、基本的な工夫はいっぱいあると思います。大がかりではなくても、カーテンを閉めるとか段ボールを貼るとか、本当に基本的なもので大丈夫かと思っています。

【会長】

2050年カーボンニュートラルに向けてやることはたくさんあって、今の取組を積み重ねてもなかなかカーボンニュートラルには届かないのが現実だと思います。だからこそ、今ある取組を、我々自身できることからやるのが基本だと思います。

先ほど言ったとおり、色々なアイデアがあると思います。この場でも出していけたらと思います。人口が22万人もあれば、それぞれ素晴らしいアイデアを持っていると思います。例えば、小中学生とか大人向けの環境アイデアコンテストをやって、良いアイデアがあれば、八戸市役所でも率先して取り組むとか、そういうものを一つ事業化してみたらどうでしょう。教育委員会等との連携や協力が必要になってくるわけですが、市役所と市民の対話につながるのではないかと思います。今までと違った取り組みをどんどんしていければいいかなと思っています。

他に何かございますか。案件1についてはこれでよろしいですか。あとで質問票にまとめていただければと思います。

それでは、2件目の「第2次八戸市地球温暖化対策実行計画区域施策編の策定について」事務局よりご説明お願いいたします。

【事務局】 案件2 資料2に基づき説明

【会長】

ご説明ありがとうございました。皆さんから何かご意見はございますでしょうか。

では私から。この実行計画は環境基本計画の中の脱炭素の部分と関連すると思いますが、中身としては一緒にしますか。実行計画のほうが、より詳細な計画になりますか。

【事務局】 はい。

【会長】

分かりました。皆さんから何かございますでしょうか。

新しい温対法では、市町村で数値目標を設けることになっていまして、こちらは部門別に数値目標を設けているとことです。この資料2の1ページ目の表が削減目標になるのですね。

【事務局】

この表は、国の目標に準拠した場合の数値で、参考として記載しました。

【会長】

実は今、青森県の環境審議会でも青森県版区域施策編の素案が出てきまして、削減目標が51%でした。県の目標とは整合させることになりますか。青森県の計画が上位計画となりますか。

【事務局】

削減につなげる取組等、まだ県の素案について把握していませんが、資料に参考として記載している表については、国がそれぞれの部門ごとに削減目標として右端のパーセンテージを掲げていますので、それに準じて計算すると全体として現時点では45%の削減となります。

【会長】

現時点では、この数値ということですね。承知しました。皆さんから何かご質問ご意見等あればお願いします。

家庭部門をみると66%削減しないといけないということで、自分の生活を振り返ってもなかなか難しいと思います。でも、やってみたいという気持ちもあります。交通手段として自動車を使うので、そこでどれだけ削減できるか。家の中での生活でどれくらい削減できるか、自分なりにチャレンジしたいと思っています。

家でお風呂に入ると、銭湯に行くのと、どちらがCO₂の排出量が少ないのですかね。八戸は、銭湯が多いことも八戸市の特徴だと思います。冬場は皆さん銭湯に行って、温室効果ガス削減に協力しましょうとか、そういう取り組みはできませんか。銭湯が好きな市民が多いということ、うまく利用できないかな等と考えています。それが市の取組としてやるべき事なのかどうかかわからないですが、本当に生活に身近なことを市民に伝えるということも大切なかもしれないと思います。

【委員】

今の話は非常に面白いと思います。確かに、八戸市は外から見ないとわからない。そういった八戸市の特色が出ればいいのかと思う反面、なかなか難しいですね。市民生活の負担がありますしね。車を使えないというのはかなり負担がかかることですし、市民の価値観がその方向に向かってくれれば我慢してくれるのですが、そのよう意識を醸成しなければいけないと思いました。

もう一つ、話が変わりますが、温暖化の対策方法について、日本独自の気候変動適用法があると思いますが、八戸市や青森県では、適用計画のようなものはつくっていますか。

【事務局】

適用という考え方、側面があることは承知しております。県で適用面を計画に取り込んでいるかどうかは把握していませんが、市の計画には適用面は反映させていません。現段階において区域施策編に適用策を取り込む予定はありませんが、もちろん適用面についても重要と考えていますので、計画の進行管理をする中で検討していきたいと考えています。

【委員】 ありがとうございます。

【会長】

他にどなたかご質問ご意見等あればお願いします。特にないようですので、今回の計画審議はこれで終了します。

また、先ほど事務局からお話がありましたように、質問票を用意してありますので、締切までに事務局へ提出してください。我々自身も基本計画をつくる、八戸市職員のお手伝いをしてつくるという気持ちで、この実行計画をつくりたいと思っています。それでは、事務局に進行をお返しします。